

愛知・山中遺跡



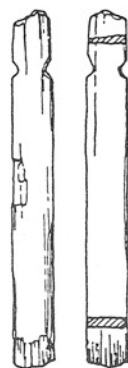
(名古屋北部)

埋管に必要な幅二m、長さ二六mの範囲であった。直径二・四mの円形の掘形をもつ井戸は、一段の木枠と曲物二段が残存し、砂に埋もれた底から箸・山茶碗・小皿とともに木簡(材質は竹)が出土した。それらは一四世紀代に比定されよう。

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
山中遺跡は弥生時代後期の「山中式」土器出土遺跡として著名である。発掘は県立尾張病院の埋管工事にもなう事前調査であり、

- 1 所在地 愛知県一宮市萩原町富田方字山中
- 2 調査期間 一九八一年(昭五)二月～四月
- 3 発掘機関 一宮市教育委員会
- 4 調査担当者 岩野見司
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

8 木簡の釈文・内容



0 3cm

(1) $\begin{bmatrix} \wedge \\ \square \end{bmatrix}$

(101)×12×2 039

僅かに墨書の痕跡がみられる。付札か。

9 関係文献

一宮市教育委員会『尾張病院山中遺跡発掘調査報告』(一宮市文化財調査報告8 一九八二年)

(岩野見司)